

# 簡冊を作る

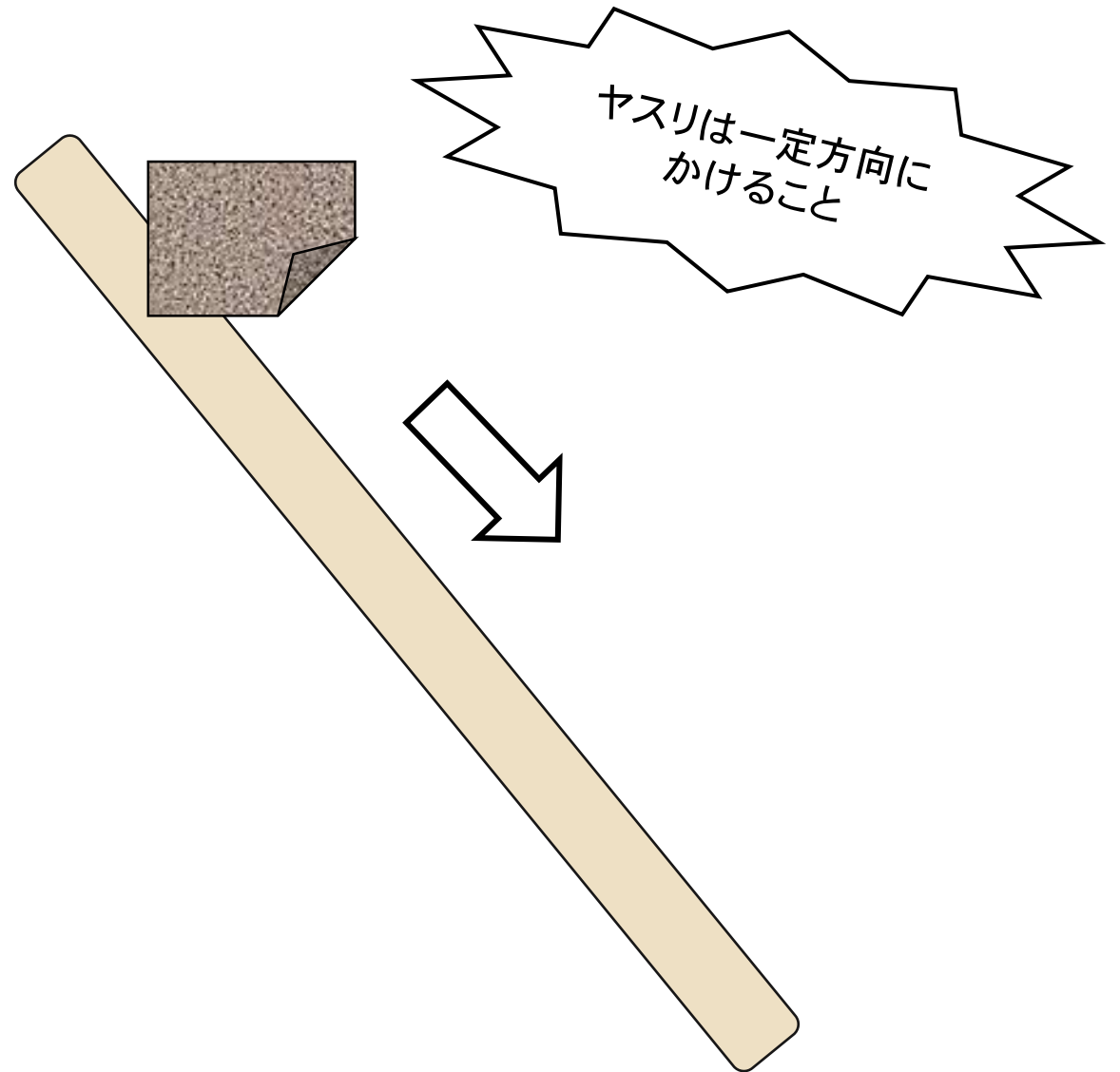


大阪大学中国哲学研究室 湯浅邦弘  
(製作協力：六車楓)

## ①竹簡をなめらかにする

竹片の側面と上下端に紙ヤスリを軽く当ててなめらかにする。

- ✓ 現在発見されている竹簡は、短いもので15cmくらい。長いものでは30～60cmくらい。幅は1cm弱。



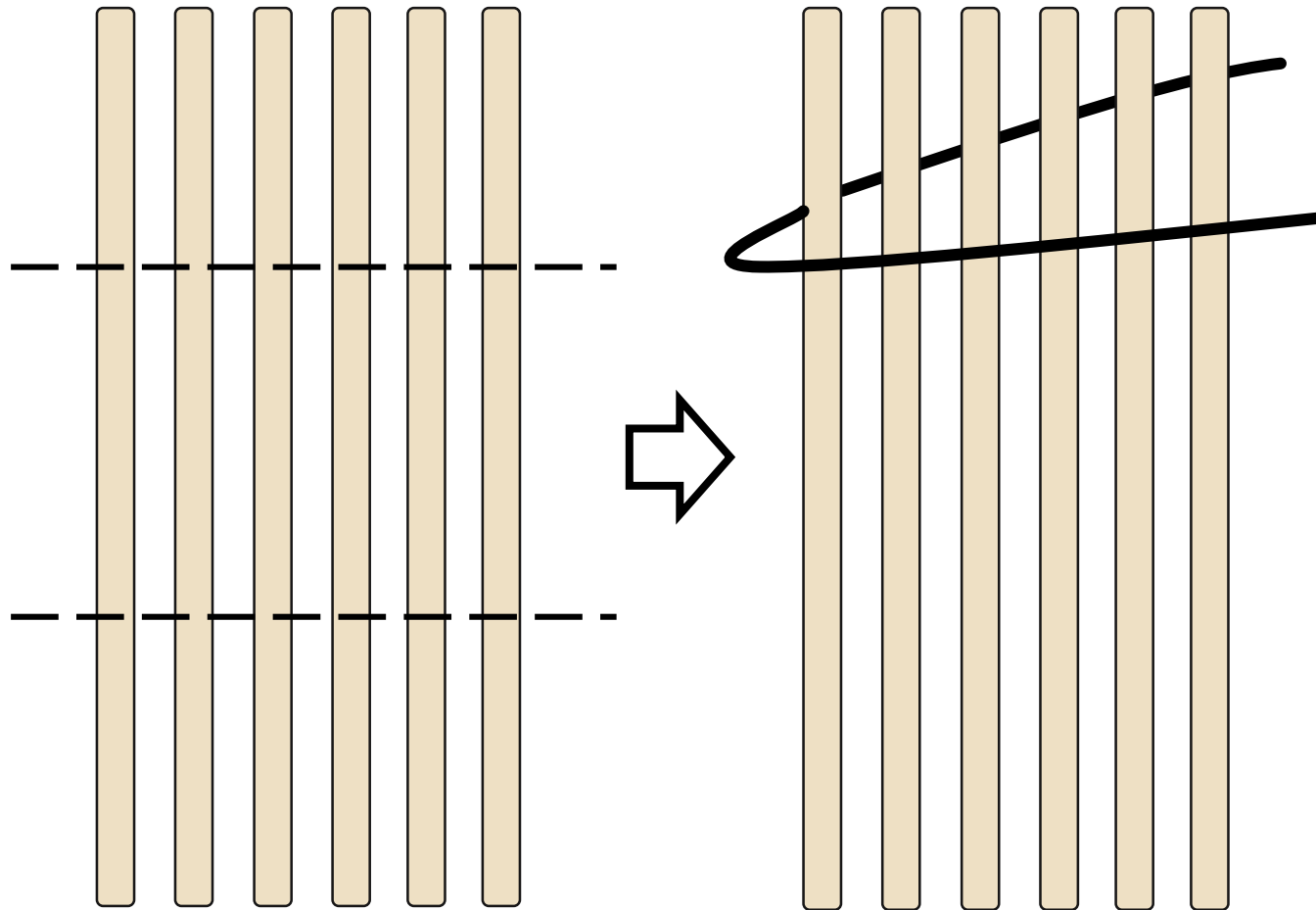
## ②竹簡を並べる

すべすべしない方（やや白い方）を  
表（文字を書く面）とする。

## ③最終簡の左側から ヒモの真ん中をかける

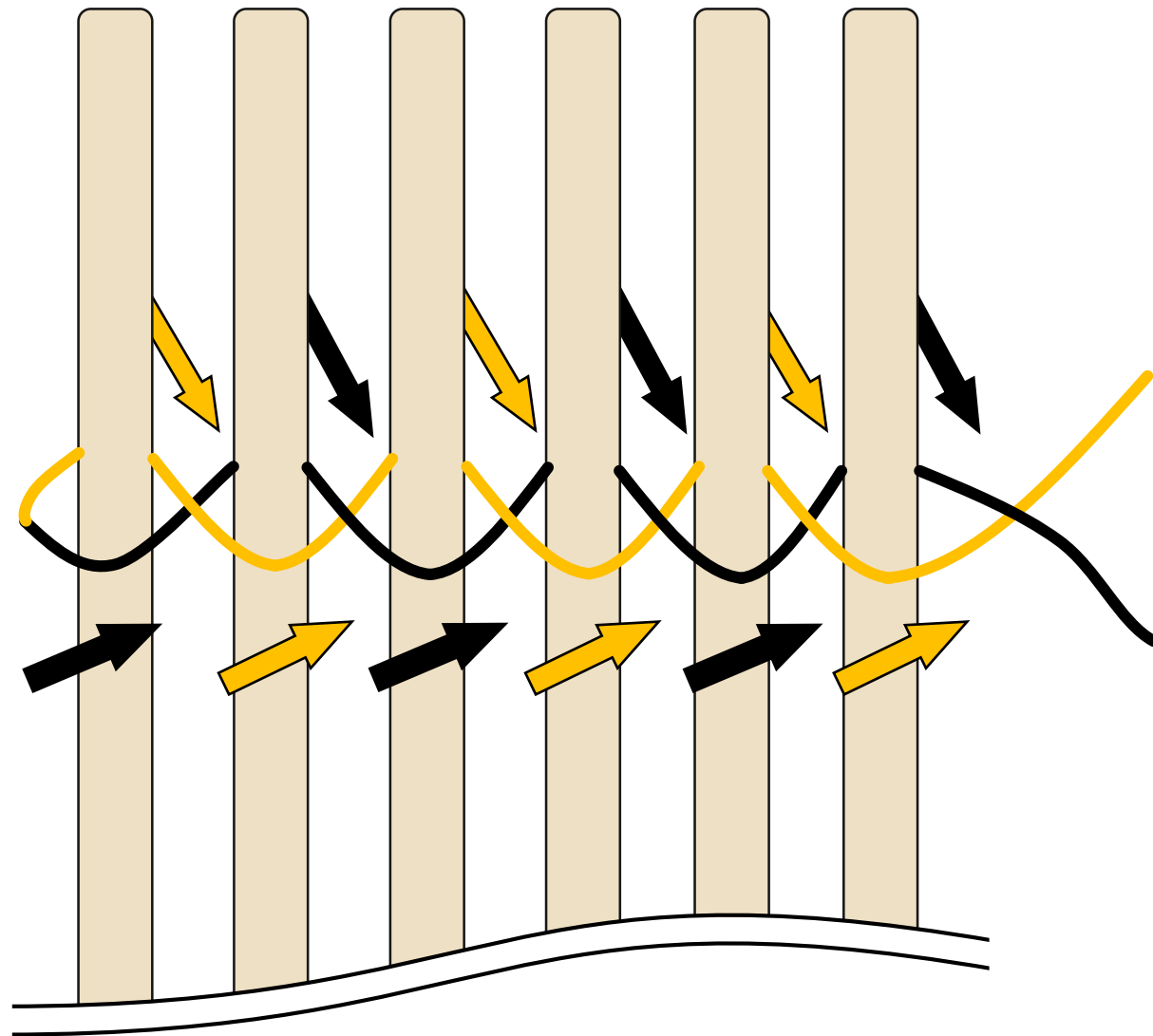
上から三分之一（上段）を目安にする。

✓ 長い竹簡では、上・中・下の  
3ヶ所で編む場合もあった。



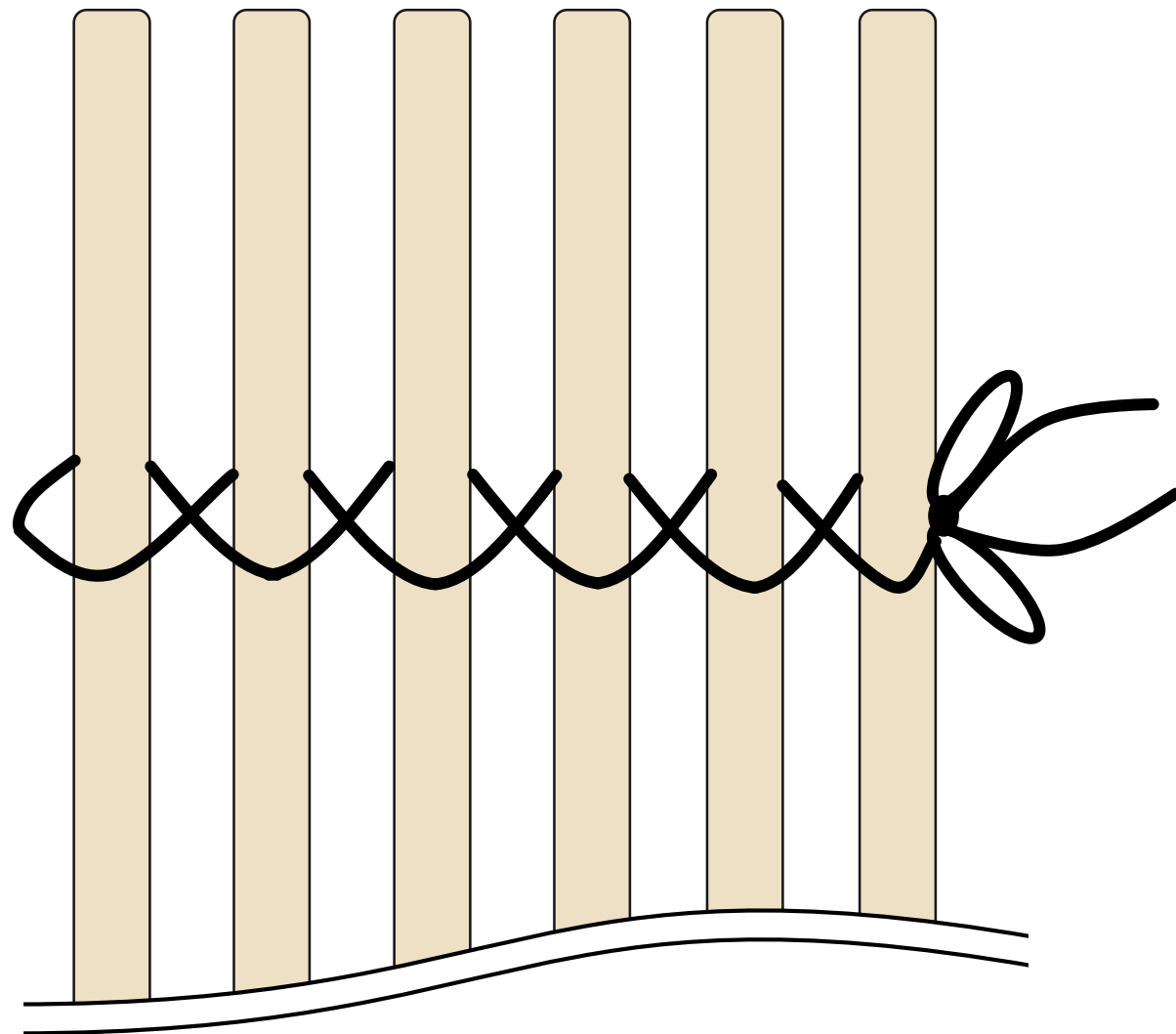
## ④ヒモを編む

- ◆ 次の筒にかける前に一度ヒモをひねり、順次、右側の竹筒に移る。
- ◆ ひねる際、「後ろからきたヒモが上になる」という原則を決めておくと、編み目がきれいに揃う。

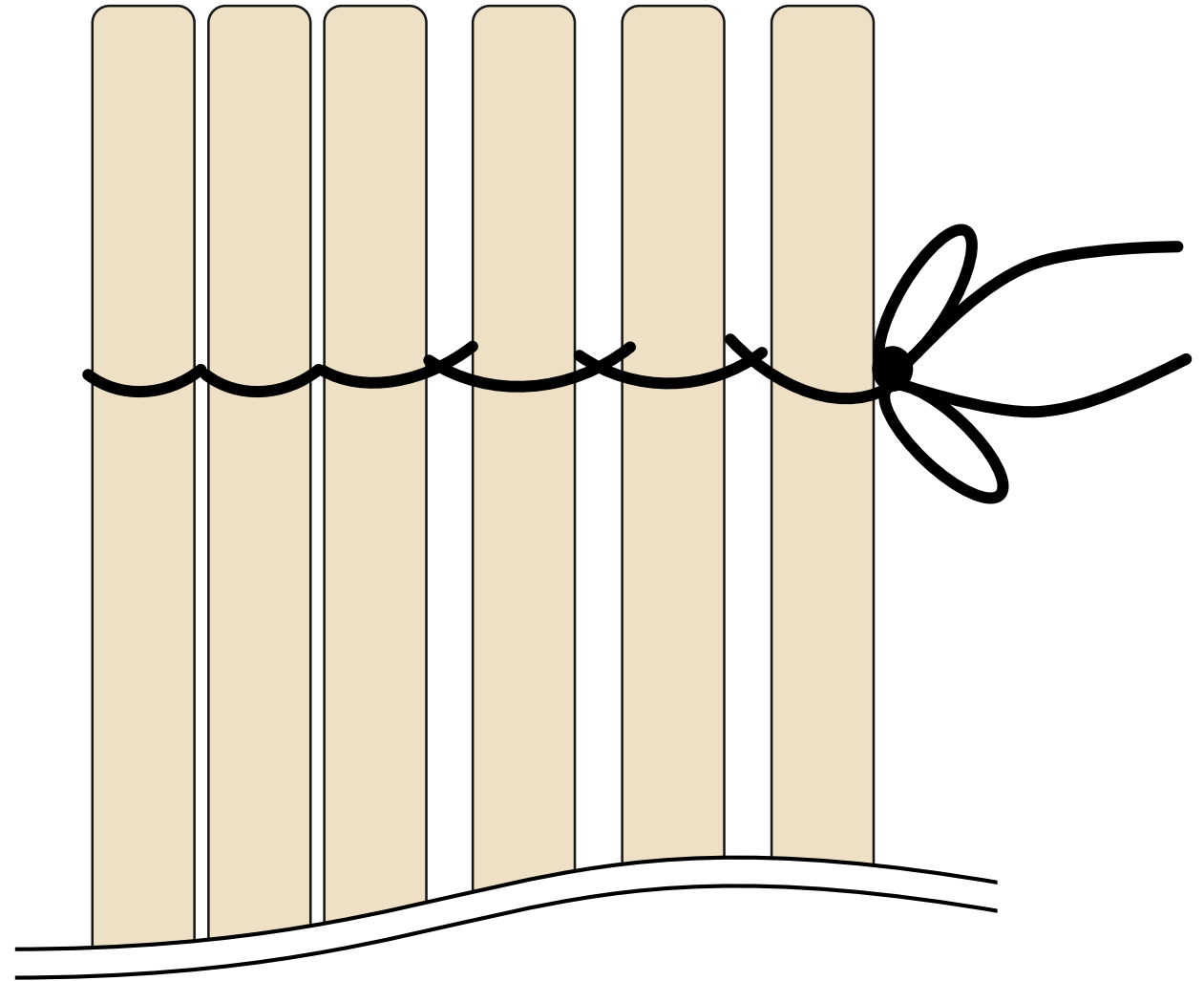


## ⑤先頭の筒までできたら、 一旦仮止めする

- ◆ここであまりきつくしめると、  
下段が編みづらくなる。
- ◆上段ができたら、下段も同様にする。

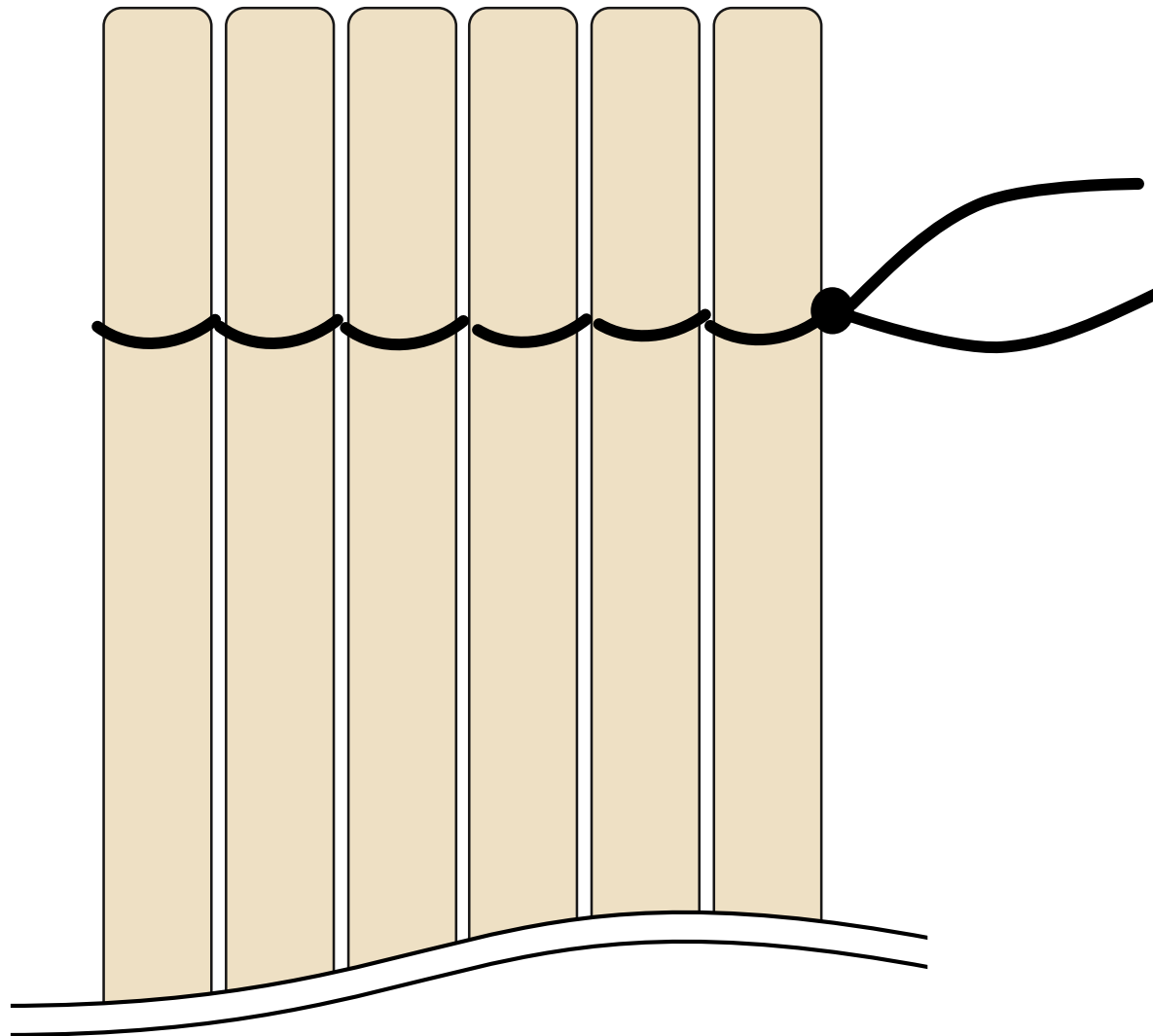


⑥ 上段左側から一本ずつ  
ゆるみをとる

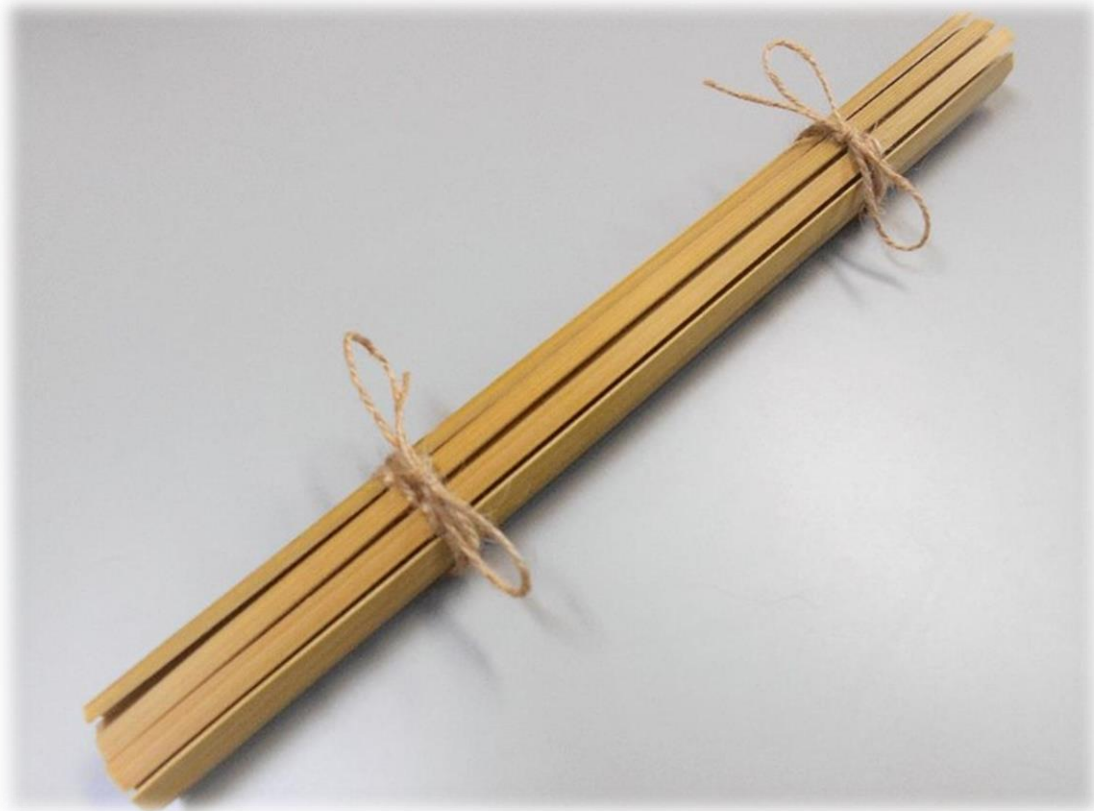


⑦先頭の筒まできたら、  
本締めをする

上段ができたら、下段も同様にする。



完成





## ⑧文字を書いてみましょう

- ◆ 墨でなくてもよい。  
濃い鉛筆（Bや2B）も可。
- ◆ 幅が狭いので、やや縦長の文字を意識する。
- ◆ 好きな言葉や古典の言葉などを書いてみましょう。

### ～竹簡関連の漢字～

- 「冊」
- 「典」
- 「柵」
- 「卷」

※古代の竹簡が出土する場合、編綫（ひも）は腐ってなくなっている場合がほとんどで、どのように竹簡を綴じていたのかの詳細は分かっていません。従って、ここに示したのは、あくまでその可能性の一つです。

